



TITLE:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 146

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 146. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1964, 146: 27-30

ISSUE DATE:

1964-11-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186892>

RIGHT:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所

水族館月報

No. 146

1964年10月

10月の入場者数

一 般		団 体		有 料 合 計	特 別 観 覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
59,276	448	19,139	7,235	86,783	685

前年度比	1963	1964	増 減
入場者数	96,395	86,098	- 10,297

水族館記事

- ◎ 6日 塔島でイズスミ幼魚を釣採集中、アオヤガラ（55cm）を釣上げた。この魚が釣で採集されるのは珍しい。その後№1水槽でイソスジエビ・ギンユゴイ幼魚を与えて餌付けに成功し、月末現在元気である。
- ◎ 7日 前日、釣採集のさいに見つけたサザナミヤツコ（12cm）をSCUBA潜水で採集。T-5水槽で人気を集めていたが、白点病のため、29日死亡。
- ◎ 10～13日 徳島大学アクアリング部（部長：同学工学部藤原晴夫助教授）一行6名来所。
近海で潜水訓練を行なった。
- ◎ 12日 冷凍機コンデンサーの海水循環ポンプは、今月に入ってから騒音がひどくなつたので、メーカー（積水化学）に点検させたところ、軸受ベアリングが磨滅していたので、これを取替えて復旧した。
- ◎ 15日 瀬戸より入槽したアオリイカ（15～17cm）5個体のうち、1個体は生きたクロホシイシモチに餌付きしたが、入槽時のすれが悪化し、20日死亡。
- ◎ 16日 K水槽のマダイ12個体は、いずれも20cm以上に成長し、この槽が狭くなつてきたので、H水槽へ移収した。なお、ヘダイ、チダイはこれまで通り、K水槽で飼育中。

- ◎ 24日 才1水槽室南・西側水槽裏の作業通路は、巾15cmの板だけで不便だったので、これを窓ぎわまで（約60cm）拡張した。また、餌料の調理は、これまで主に屋外プール前の作業場で行なっていたが、雨の日や冬季は不便であったので、南側作業通路拡張を機に、№16水槽裏にステンレス流しを新設し、ここを調理場に利用することとした。
- ◎ 26日 近海のエビ網漁解禁。久々に、瀬戸よりカノコイセエビ、セミエビが入槽。
- ◎ 28日 大分生態水族館へ、タテジマキンチャクダイと交換で、アカウミガメ2頭を提供した。このカメは25時間のトラック輸送で、無事に同館へ着き、その後元気とのことである。
- ◎ 10月の動物入手概況

1. 採集作業

日 時	採集場所	方 法	人 員	主な目的動物
3日午後	塔 島	素もぐり	2	ヤギ類
6日 "	"	磯 釣	2	イズスミ（幼魚）
7日 "	塔島東水道	SCUBA潜水	3	チヨウチヨウウオ類
10日 "	"	磯 釣	2	ベラ類
14日 "	長島北磯	"	2	ネンブツダイ類
19日 "	塔島東暗礁	SCUBA潜水	2	熱帯性小型魚類
24日 "	動物園下の磯	タイドプール採集	2	タイドプールの小魚
26日 "	塔島東水道	SCUBA潜水	2	イシサンゴ類
31日午前	"	"	2	ネンブツダイ類

附近の岩礁には、熱帯性の魚類が、依然豊富で、主にSCUBA潜水により、採集に好成績をあげた。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽）。

無脊椎動物：イソバナ、トゲナシヤギ、サンゴイソギンチャク、スリパチサンゴ、カメノコキクメイシ、キクメイシモドキ、サラサエビ、☆*Pilumnus longicornis*、☆キヌハダモドキ、タマキビ、☆カヤノミカニモリ、ヒトエガイ、ノコギリウニ。

魚 類：アオヤガラ、☆イシヨウジ、クロホシイシモチ、☆ミナミフトスジイシモチ、キンセンイシモチ、☆リュウキユウヤライイシモチ、☆ヤミハタ、ギンユゴイ、イズスミ、イトヒキクロスジギンボ、☆クモベラ、ムナテンベラ、サザナミヤツコ、ゴマチヨウチヨウウオ、ニジハギ、ツマジロモンガラ。

2. 購 入

秋釣の最盛期なので、一本釣漁師よりの入槽が相次ぎ、1日に8隻もの船が魚を

持参したことがあつた。館の収容能力には限りがあるから、やたらに買い取ること
はできず、かといつて、せつかく持つて来た魚を断ると今後の購入にさしつかえる
ので、適当に買いひかえるのに苦心した。数年前、沖に停泊している漁船の間をま
わつて、魚を買い集めたことを思うと、隔世の感がある。

食用としてはただ同様の雑魚でも、水族館にとつて価値のある魚は、それ相応の
値段で買い取るようにしてきた効果であらう。

主な購入動物名

無脊椎動物：テツボウエビ、カノコイセエビ、セミエビ、トラフカラツバ、メガネ
カラツバ、シマイシガニ、ジャノメガザミ、ウロコオウギガニ、ベニホシマン
ジュウガニ、ヤツシロガイ、アオリイカ、コウイカ、カミナリイカ。

魚 類：ヒメ、☆タスジイシモチ、チカメキントキ、クルマダイ、キハツソク、
サクラダイ、チダイ、コロダイ、タマガシラ、☆シコクタマガシラ、イトタマ
ガシラ、ウイゴンベイ、☆トウアカクマノミ、フタスジリュウキユウスズメ、
コバルトスズメ、ミノカサゴ、セミホウボウ。

◎ 飼 育 概 況

予備水槽（R-1）に白点病が発生したのに気付かず、入槽直後の魚を収容した
ため、R-4.5, No 1, T-5, F, T R-1.3, の各槽に蔓延し、かなりの被害
をだした。しかし、入槽数が死亡をはるかに上まわつたので、各水槽とも近來にな
い盛況である。魚類のコレクションは255種になり、これまでの記録を更新した。

10月31日現在、飼育中の動物は、総計469種 3388個体以上で、その
内訳は次の通り。このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は、455種 3005
個体以上。

カイメン類	1種	2個体	ゴカイ類	4種	11個体	イカ類	3種	11個体
ヒドロ虫類	1"	7"	カブトガニ類	1"	3"	タコ類	—"	—"
ハチクラゲ類	1"	1"	フジツボ類 カメノテ	3"	52"	ウミシダ類	3"	8"
ウミトサカ類	5"	14"	エビ類	12"	119"	ヒトデ類	6"	101"
ヤギ類	6"	37"	シヤコ類	3"	15"	クモヒトデ類	2"	4"
ウミエラ類	1"	1"	ヤドカリ類	9"	112"	ウニ類	16"	110"
イソギン チャク類	7"	54"	カニ類	43"	239"	ナマコ類	6"	20"
イシサンゴ類	12"	40"	アメフラシ類	2"	4"	ホヤ類	3"	5"
ツノサンゴ類	1"	1"	二枚貝類	15"	217"	軟骨魚類	4"	22"
ハナギン チャク類	1"	12"	巻貝類	43"	611"	硬骨魚類	251"	1480"
ホウキムシ類	—"	—"	ヒザラガイ類	1"	3"	カメ類	3"	42"

資 料

10月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：17	5	6	6
室温（℃）	$\frac{19.7 \sim 25.0}{22.4}$	$\frac{19.4 \sim 23.2}{21.5}$	$\frac{18.4 \sim 23.1}{20.5}$
水温（℃）	$\frac{23.20 \sim 25.20}{24.36}$	$\frac{23.00 \sim 24.00}{23.56}$	$\frac{21.60 \sim 24.00}{22.87}$
比重（15℃）	$\frac{25.06 \sim 25.35}{25.17}$	$\frac{24.83 \sim 25.35}{25.07}$	$\frac{25.11 \sim 25.61}{25.26}$

才3水槽室（水温）

H水槽（℃）	$\frac{22.3 \sim 24.9}{23.4}$	$\frac{21.6 \sim 22.8}{22.3}$	$\frac{20.3 \sim 23.7}{21.7}$
T-8水槽（℃）	$\frac{23.0 \sim 25.3}{24.6}$	$\frac{23.1 \sim 23.8}{23.4}$	$\frac{20.6 \sim 23.9}{22.5}$

海水取入口

水温（℃）	$\frac{23.54 \sim 25.36}{24.60}$	$\frac{23.52 \sim 24.00}{23.77}$	$\frac{22.40 \sim 24.20}{23.23}$
比重（15℃）	$\frac{24.96 \sim 25.89}{25.17}$	$\frac{24.67 \sim 25.35}{25.06}$	$\frac{25.15 \sim 25.53}{25.38}$

昭和39年11月15日 (No.146)

編集兼発行者 市 川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜)2047. 3515